

R3度 堺区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体		
堺区子育てつながるプロジェクト		堺区役所 子育て支援課		
事業目的	事業効果	活動指標	R2度から実施	R3度
R3度に『さかいっこひろば』『新堺保健センター』が新設されることに伴い、既存の地域の子育て資源やサービスに加え、これら新たな資源と子育て家庭を有機的につなげ、子育て家庭が安心して子育てできるように関係機関・施設と連携し、子育て支援の充実を図る。また、新型コロナウイルス感染防止対策はもちろん、オンラインでの事業実施等安全で安心して参加できるような事業を実施していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て中の親子が交流し、互いに支え合う場となる(子育て家庭同士のつながり) ・保護者が安心して子育てができることで、親子の愛情が深まる(親子のつながり) ・地域の子育て資源(子育てサロン・サークル、みんなの子育てひろば、保育施設の園庭開放等)に関する情報提供をすることで、身近にある地域の子育て資源の利用につながる(地域とのつながり) ・行政等関係機関から子育てに関する相談対応や情報提供を行うことで、子育て家庭が関係機関に対し、気軽に相談できる関係を築くことができる(相談機関とのつながり) 	実施回数 参加者数	○オンライン事業 9回実施 (計27組参加) ○個別・少人数相談 11回実施 (計29組参加)	○オンライン事業 8回実施 (計38組参加) ○さかいっこひろば主催事業 2回実施 (計10組参加) ○さかいっこひろば訪問事業 毎月第2水(年度合計150組対応) ○堺保健センター訪問事業 4ヶ月健診実施時(計10回訪問) ○地域連携事業(みんなの子育てひろば等支援) 4回訪問 ○堺区子育て応援MAP改訂およびホームページ更新
①妥当性	②協働の視点	③インパクト	④効率性	
○ 堺区は他区に比べ転入家庭が多く、コロナ禍で親族等支援者が身近にいない家庭も多い。安心して子育てができるように、相談対応やサービス利用の機会を今後もつづけていく必要がある。	△ 『さかいっこひろば』とは今後も連携して実施していきたい。 『みんなの子育てひろば』にはニーズに応じて訪問支援を行っているが、コロナ禍で区内の子育てサロン・サークルはほぼ再開されていない。再開後は、地域にも訪問し、地域や事業者とも協働できる機会を増やしていきたい。	○ 堺市の子育て支援施設としての『さかいっこひろば』と今後も連携して実施していくことで堺区のアピールにつなげていく。 オンラインでの事業も、テーマを設定しながら柔軟に実施していく。	○ オンラインでの実施は、参加する親子にとって自宅でもスマホでも参加できる。開催する側も、大きな会場の確保や会場準備の必要はなく、効率的に実施できる。	
⑤自立発展性	総合評価			
△ コロナ禍で、地域の『子育てサロン・サークル』が再開されていないところが多いが、再開後は当課も訪問し、地域で地域による子育てが実施できるように支援していきたい。	○ 今年度開設された『さかいっこひろば』『堺保健センター』への訪問事業を開始したが、とくに『さかいっこひろば』への毎月の訪問事業は定着し、感染症対策をとりながら、対面で気軽に相談できる機会となっている。オンライン事業は昨年度よりも参加者が増え、コロナ禍でも来所せずに相談対応できることから、今後も継続していきたい。 『堺区子育て応援MAP』についてはQRコードを増やし、内容に合わせてホームページの更新を行った。			
今後の方向性(課題、改善提案等)				
拡充 継続 見直し 廃止	今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症を考慮しながら実施することとなった。今年度開設の『さかいっこひろば』において事業を実施したが、事業者の協力を得ながら、円滑に実施することができた。とくに毎月1回の訪問事業は、乳幼児期の子どもの身体計測を行いながら、それをきっかけに相談につながり、気軽に相談できる機会として定着してきている。 堺保健センターは、4か月健診時に当課職員が訪問し、育児支援ヘルパー等のサービスについて案内を行ったが、今後も継続していく。 オンラインでの相談事業について、助産師の講座や交流を実施したが、参加者の満足度は高く、定期的に参加していただく親子もいた。 地域連携事業は、地域の子育てサロン・サークルがコロナ禍で再開できていないが、再開次第、訪問を行い、参加親子や運営スタッフへの支援を行ってきたい。 コロナ禍で育児支援ヘルパーや産後ケア事業等サービスの申請数が増えたが、相談機会についても対面やオンライン等さまざまな機会が必要であり、今後も感染症対策をとりながら継続して実施していきたい。			